



後援会だより

共生システム理工学研究科

前期博士課程(修士課程)いよいよ開設

平成16年10月、21世紀型の人材育成を目指して、福島大学に共生システム理工学類が創設され、平成17年4月から学生を受け入れ3年が経過しようとしています。ますます高度化する科学・技術、緊迫化する環境問題、これらを新たなシステムサイエンスを活用して、専門家として現代社会で活躍してもらうためには研究科での学習が不可欠になっています。こうした観点から、共生システム理工学類では平成17年度より大学院構想検討委員会を立ち上げ、平成21年4月大学院設置を目指して、本年6月29日大学院設置のための設置審査を受けています。審査が通れば本学類の卒業生をまたずに大学院の学生を迎えることになります。年次進行ではなく、1年前倒しの大学院の設置は国立大学では初めてのことです。また、1年前倒しの大学院設置は、3年生の12月から始まる進路選択、就職活動において大変重要な提起ができたと考えています。すなわち、共生システム理工学類の理念に共感して入学してきた学生の皆さんの、学び場が完備したことになるからです。当然、年次進行で後期博士課程（博士課程）を設置することになります。

次年度より発足予定の共生システム理工学研究科では、共生システム理工学類の理念でもある新しいシステム科学を構築、発展、継承できる人材と、これらの課題解決に実践的に貢献できる高度専門職業人や研究者を育成することを目的としています。共生システム理工学研究科の学生定員は60名で、社会人も受け入れ、社会人に対応した夜間での授業も実施することになっています。また、「共生システム理工学類」での専門性が不明確だと外部評価を受けて、研究科では図に示したように教育、指導の責任を明確にし、専門性を深化させ、養成する人材像及び修了後の進路をより明確にするために、1研究科1専攻で①人を中心とする機械・情報システムの合理的構築に関する「人間-機械システム」分野、②省資源・高付加価値型産業システムに関する「産業システム」分野、③自然資源の量的・質的保全に関する「環境システム」分野、④情報システムを活用し

たシステム制御や数理モデルに関する数理・情報科学」分野、⑤環境負荷の少ない材料科学・新材料開発に関する「物質科学」分野の5分野を設けています。学類の3専攻から進学でき、さらに、具体的に自分の専門性を積み上げられる構造にしています。



今日、子どもを大学へ出すだけでも大変な経済負担のなか、大学院の進学は保護者の皆さんのさらなる負担になることはいうまでもありませんが、現在理工系の学生の大学院の進学は70%を超え、全国的に低い東北地区でも50%となっています。一方、学部生の就職開拓の訪問先でも、営業部門はとてかく技術者は修士が普通になっているとの情報も寄せられています。共生システム理工学類の大学院設置はこうした状況の打開策の一つでもあります。また、地元を担う人材育成策として、福島県の研究機関と連携した人材育成や実践的に福島県の研究機関で学べる連携も構想されています。研究科設置は共生システム理工学類自身が研究・教育・社会貢献で一段と大きく飛躍する機会になると思います。後援会の皆様のさらなるご支援をお願いいたします。

1年グループ紹介

Aグループ アドバイザー 筒井 雄二

高校と大学の大きな違いの一つは、ゼミナールとよばれる授業形式。一年生はその入門として教養演習というゼミナールで勉強中。自由にテーマを設定し、それぞれ研究の動向を調べています。「犯罪者の心理」「地球温暖化」「テクノクライシス」「タミフル」「河川浄化」が、各班のテーマ、7月半ばに調査結果をプレゼンテーションしてくれる予定です。楽しみ！



Bグループ アドバイザー 生田 博将

教養演習Ⅰでは、「環境とエネルギー」に関する理解を深めるため、4つのグループに分かれて、それぞれ別々に設定したテーマのもと図書館を利用した調査を行い、レジュメを作成し、発表を行っていただきました。グループリーダーの頑張りもあり、各グループ充実した内容の発表となりました。



Cグループ アドバイザー 猪俣 慎二

私たちのクラスは女子5名を含む22人で、半数が福島出身、残りは北関東から青森にかけてのバラエティーに富ん

だ面々です。人見知り期間も終わり、みながお互いのことを理解しあえるようになりつつあるところです。今後の成長が楽しみです。



Dグループ アドバイザー 藤本 勝成

Dクラスは、男性16名、女性6名の計22名、出身県は、本州最北端の青森（1名）から始まって、秋田（1名）、宮城（1名）、福島（12名）、新潟（3名）、栃木（3名）と本州最南端の和歌山（1名）まで揃っています。

最初のうちは見るからに「新入生」でしたが、日に日に雰囲気も変わってきて、もうすっかり普通(?)の大学生に見えるようになりました。



Eグループ アドバイザー 大橋 勝弘

学生22名で姓名はすべて違う集まりです。県外から入学した学生も多く、結構楽しんで集まっています。

場所は、私が経済棟にいる関係、経済経営学類のゼミ室を利用させてもらっています。細長いテーブルをつないで正方形にしてお互いが目で見えるように座っています。現在学生各人が自分の関心を見いだすため、毎回、自分の興味のある記事を報告させ、それについてコメントをしてさらに自分なりの内容に深めることができなにか考えながら聴いている状態です。



Fグループ アドバイザー 木村 勝彦

福島県出身者が主体ですが、青森、山形、宮城、栃木、茨城、東京、新潟、富山の学生がいます。積極的な学生が多く、代表や各種委員を選ぶときにも比較的すっきりと決まりました。ただ、女子は少々おとなしいようです。



Gグループ アドバイザー 三浦 一之

Gグループは全体的におとなしい雰囲気ですが、合同授業等にも熱心に取り組む比較的主観的な学生が多いという印象を持っています。入学から数ヶ月経ち、学業や部活動に力を入れて頑張っている学生も多いようですので、充実した学生生活を送れるようサポートしていきたいと思います。



Hグループ アドバイザー 笠井 博則

授業外の活動で、4月末に懇親会として食事会+ボーリ

ング大会を開催しました。

Hグループの特徴は女性陣の元気が良いこと。一部テンションの高さについていけない人もいますが、どんな人とも交流できることはこれからの勉強でも仕事でも大切なことだと思っています。みんなが前向きに活動しているのがこの先が楽しみです。



Iグループ アドバイザー 高貝 慶隆

Iグループは21名のうち12名が福島県内出身者であります。他のグループに比べて、自宅から通学している学生が多いようです。お互いの距離感を計るかのようによそよそしかったのは当初とは違い、友達もできキャンパスライフを満喫しているようです。



1-3年合同交流会開催

共生システム理工学類も最上位学年が3年生となり、専攻や研究室への配属、講義のこと、大学生活のこと、その他いろいろなことについて情報交換をしていました。



▼Bグループ合同交流会
5月18日
福島大学生協2F
「レストラングリーン」にて

▲Iグループ合同交流会
5月8日
関谷ふれあいセンターにて



親のための就職セミナー開催！

主催 福島大学就職支援委員会
 後援 福島大学人間発達文化学類後援会 福島大学行政政策学類後援会
 福島大学経済経営学類後援会 福島大学共生システム理工学類後援会

親として若者の未来にどう関わるか！

最近フリーターやニート問題が社会問題となっている中、本学就職支援委員会では、保護者とも連携しながら就職支援をしていく必要性を痛感しております。子供の働くことに対する意欲を高めるために、保護者としてどうかかわるべきなのかについて理解を深めるために、在学生の保護者を対象に下記のとおり「親のための就職セミナー」の開催を企画いたしました。

当日は、金谷川のキャンパスで「大学祭」も実施されておりますので、是非ともご来場いただきますようお願いしております。

なお、セミナーへの参加申込書を別紙添付いたしましたので、参加ご希望の方は参加申込書にご記入の上、FAXまたは郵送で下記送付先へ10月19日(金)までお送りくださいますようお願いいたします。

記

1. 開催日時：平成19年11月3日(土) 13時～14時30分 [参加無料]
2. 開催場所：福島大学共通講義棟 L-1教室(福島市金谷川1番地)
3. 参加対象：福島大学の在学生の保護者(先着200名)
4. 開催内容：①挨拶 福島大学副学長(学務) 中井 勝巳
 ②福島大学の就職状況について
 ③講演 石原 誠一郎 氏(株式会社ツールキャリア代表取締役)
 ※参加者全員が参加できる心理ゲームやペアワークを体験できます！
 ④質疑応答

[参考]

● 石原 誠一郎氏のプロフィール

石原誠一郎・52歳。1978年早稲田大学卒 日本キャリア開発協会認定CDA 日本キャリアデザイン学会会員
 大学卒業後大手金融機関で政府系融資を担当。その後大手就職情報会社に転職し、金融、メーカーなど大企業の採用広報担当を歴任後、就職ガイドブックの編集長を担当。その後人材紹介事業を立ち上げ、転職希望者に対して心理学のカウンセリングマインドを基礎にしたキャリアカウンセリングを実践。2006年1月自分の理想とする「天職」サポートの実践のため独立。現在工学院大学、目白大学においてキャリアデザイン講座を担当中。

[送付先] 福島大学学生支援部門就職支援グループ 中川西 一

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地 TEL 024-548-8108 FAX 024-548-8355

福島大学共生システム理工学類同窓会準備会報告

福島大学では、経済学部の信陵同窓会、教育学部の吾峰会、行政社会学部の阿武隈会と共生システム理工学類同窓会準備会の4つの組織で福島大学同窓会を構成しています (<http://dousou.fukushima-u.ac.jp/>)。それぞれの学部の卒業生が、それぞれの歴史と伝統の中で、特徴を生かして同窓会活動をすると同時に、一丸となって母校支援活動や在学生支援活動をしています。現在、福島大学同窓会が一丸となって支援している事業に「福島大学共生システム理工学類研究教育後援募金」活動があります。福島大学同窓会として2000万円を目標に支援活動をしてきました。

こうした全学的な同窓会との連携をとるため、共生システム理工学類ではまだ卒業生は出ていませんが入学時に同窓会準備会入会金として1万円(他学類は同窓会費として3万円)を納めていただいています。平成21年3月に卒業生を送り出す時には正式な同窓会を発足させ、同窓生の交流の場だけではなく、卒業生と在校生の交流の場、特に、研究会や技術交流会などを開催しながら新たな伝統と母校支援を構想しています。ここにご協力を戴いている後援会の皆様これまでの決算についてこの場を借りてご報告いたします。併せて、今後ともご支援くださいますようお願いいたします。

(担当 渡邊 明)

日付	内 容	収 入	支 出	残 高
2005年8月2日	平成17年度入学生納付金	1,920,000		1,920,000
8月20日	利息	30		1,920,030
11月2日	福島大学同窓会会費(手数料を含む)		100,315	1,819,715
2006年2月18日	利息	8		1,819,723
5月15日	学籍移動による返金*1(1万円×4名)		40,000	1,779,723
7月4日	平成18年度入学生納付金	1,840,000		3,619,723
8月19日	利息	289		3,620,012
10月6日	転学類による学籍移動返金*2(1万円×5名)		50,000	3,570,012
2007年2月17日	利息	1,430		3,571,442
3月14日	福島大学同窓会会費(手数料を含む)		100,525	3,470,917

* 1 退学等の学籍移動により返金いたしました。 * 2 理工学類から人間発達文化学類への転学類があり返金いたしました。

4月6日(金)、福島大学にて平成19年度総会が開催されました。平成18年度決算報告と平成19年度会計予算が承認されました。

平成18年度共生システム理工学類後援会会計決算報告

収入内訳

(単位円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減額	備 考
繰 越 金	2,613,298	2,613,298	0	
会 費	3,640,000	3,680,000	40,000	182→184名
雑 収 入	0	0	2,482	
合 計	6,253,298	6,295,780	42,482	

支出内訳

(単位円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減額	備 考
総 会 費	30,000	1,785	28,215	資料印刷費等
役 員 会 費	100,000	89,717	10,283	理事会会場費、交通費、資料費
人 件 費	400,000	263,000	137,000	幹事事務手当て 1000/時 20時間/月×12 諸会費納入受付アルバイト(件)
職 員 旅 費	50,000	3,000	47,000	
事 務 費	250,000	78,639	171,361	通信費、消耗品費、事務局備品、HP管理等
小 計	830,000	436,141	393,859	
学 生 活 動 助 成 費	860,000	364,057	495,943	学生の研究・課外活動支援費
就 職 指 導 対 策 費	600,000	143,583	456,417	企業講演会、企業交流会、就職先開拓
後 援 会 報 費	400,000	166,370	233,630	会報年2回発行
福 利 厚 生 費	380,000	124,204	255,796	アドバイザーグループ親睦会等助成、学類学生交流会
教 育 研 究 助 成 費	400,000	169,795	230,205	実施指導、実習指導助成
小 計	2,640,000	968,009	1,671,991	
学 籍 移 動 に 伴 う 返 金	0	122,500	△122,500	退学者4名、転学類者6名
支 出 合 計	3,470,000	1,526,650	1,943,350	
予 備 費	2,783,298	4,769,130	1,985,832	学生活動助成(38万円×5年)福利厚生費(19万円×5年)通信費(3万4千円×5年)等を含む
合 計	6,253,298	6,295,780	1,943,350	

収支決算 6,295,780 - 1,526,650 = 4,769,130円は平成19年度へ繰越

平成19年3月31日報告

上記のとおり報告いたします。

共生システム理工学類後援会 会計担当

田井昌子



平成18年4月1日から平成19年3月31日までの会計について、会則に基づき監査の結果、その処理が正確であり適切であることを報告します。

共生システム理工学類後援会 監査役

浅田英治



平成19年度共生システム理工学類後援会会計予算

収入内訳

(単位円)

科 目	平成19年度予算額	平成18年度予算額	比較増減額	備 考
繰 越 金	4,769,130	2,613,298	2,155,832	
会 費	3,620,000	3,640,000	△20,000	20000×180、10000×2(平成19年3月31日現在)
雑 収 入	0	0	0	預金利息等
合 計	8,389,130	6,253,298	2,135,832	

支出内訳

(単位円)

科 目	平成19年度予算額	平成18年度予算額	比較増減額	備 考
総 会 費	10,000	30,000	△20,000	資料印刷費等
役 員 会 費	100,000	100,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
人 件 費	400,000	400,000	0	幹事事務手当て 1000/時 30時間/月 謝金含む
職 員 旅 費	10,000	50,000	△40,000	理事等の打合せ
事 務 費	100,000	250,000	△150,000	通信費、消耗品費、事務局備品等
小 計	620,000	830,000	△210,000	
学 生 活 動 助 成 費	900,000	860,000	40,000	学生の課外活動支援費 2000/人、表彰制度 5000/人×40
就 職 指 導 対 策 費	500,000	600,000	△100,000	企業講演会、企業交流会、就職先開拓
後 援 会 報 費	200,000	400,000	△200,000	会報年2回発行
福 利 厚 生 費	570,000	380,000	190,000	アドバイザーグループ助成 1000/人、学生交流会等
教 育 研 究 助 成 費	2,000,000	400,000	1,600,000	実施指導、実習指導助成、資格試験受験助成(3,000/件)、海外演習助成、学会参加費、研究交流会費
小 計	4,170,000	2,640,000	1,530,000	
予 備 費	3,599,130	2,783,298	815,832	学生活動助成(38万円×6年)福利厚生費(19万円×6年)通信費(2万5千円×6年)等を含む
合 計	8,389,130	6,253,298	2,135,832	

平成19年度 福島大学理工学群共生システム理工学類後援会役員名簿

【役員】

会 長 富 田 康 男 H17~
副 会 長 清 野 好 江 H17~
副 会 長 瀨 川 秀 和 H18~
監 理 查 事 浅 藤 英 治 H17~
理 事 事 高 藤 新 一 H18~
理 事 高 橋 薫 H19~

理 事 富 田 道 夫 H19~
理 事 菅 野 毅 H19~

【事務局】

共生システム理工学類長：入戸野 修
総務担当評議員：渡 邊 明
事 務 局 員：田 井 昌 子

こんな活動も応援しています

工場見学 —「キャリアモデル学習A」

6月20日(水)・27日(水)、「キャリアモデル学習A」で福島市近郊の4事業所の見学を実施しました。130名余の理工学類生が参加しました。「キャ



リアモデル学習A」では社会経験の乏しい学生が様々な分野で活躍している人の考え方を通して、社会について、職業について考える契機となることを目的としています。

オープン・キャンパスで学生が活躍

8月5日(日)、今年も福島大学「オープンキャンパス」が開催されました。イベントプランナーとして、キャンパスツアー・コンダクター、あるいは実験棟での教員の研究紹介補助として活躍するオレンジ色のTシャツ姿の理工学類1、2年生の成長した姿が見られました。



「わくわくサイエンス屋台村」

8月9日(木)、10日(金)、福島市子どもの夢を育む施設「こむこむ」で、市制100周年に合わせてわくわくJr. カレッジ「わくわくサイエンス屋台村」が開催されました。科学に親しんでもらうための『体験型企画』を行い、多数の学生が「屋台のお兄さん・お姉さん」として、子ども達の体験をサポートしました。



ご意見・ご要望は下記共生システム理工学類後援会まで
事務局 〒960-1296 福島市金谷川1 TEL&FAX 024-548-8176
福島大学理工学群共生システム理工学類内
学類のHPでさまざまな教育・研究活動をご覧ください。
<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>

学生生活支援便り

共生システム理工学類学生生活委員会

随時紙面をお借りして、後援会の皆様へ共生システム理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしています。

【学類学生の動向】幸い今年度は今のところ大きな事件、事故は起きていません。5月23日には、理工学類の2種類の学生表彰制度のうち、成績優秀者を対象とした「学業優秀者」の表彰を執り行いました。また、5月30日には、学類の発展に貢献した学生や団体を表彰する「学類長賞」の表彰式と、学生と教員の交流を目的とした交流会の開催を予定していましたが、この日ははしか(麻疹)による全学休講の期間と重なったため、10月17日(水)に延期されました。表彰の詳細と交流会の様子は、次号にて掲載予定です。

【はしかによる全学休講】ホームページやテレビ等の報道でご承知の方も多いと思いますが、今年度ははしか(麻疹)が全国的に流行しました。本学でもはしかに感染した学生が確認されたため、5月28日から6月10日までの13日間に渡って全学休講措置をとりました。また、課外活動への対応や、抗体検査の呼びかけなどをきめ細かく行った結果、無事に感染の拡大を防ぐことができました。ただし、はしかの流行は来年度以降も懸念されますので、学生の皆様には引き続き抗体検査及びワクチン接種等の対応をしていただけますよう、よろしくお願い致します。

【大学へのご相談】前期も終わり、学生生活に関わっているいろいろと問題や心配事が生じてくることもあるかと思えます。学生生活全般は「学生支援グループ」、学生支援グループなどに相談しにくいことは「学生総合相談室」で相談を受け付けています。基本的には本人から直接相談するのが好ましいケースが多いと思いますが、父兄の方等からの相談も可能です。学生生活上の問題(対人関係、生活上の問題など)、健康上の問題、メンタルヘルス上の問題、寮生活上の問題で相談したい、あるいは教員との間でトラブルがあるようだ、アカデミック・ハラスメント被害、ストーカー被害、セクハラ被害などにあっているようだ、学費納入が困難になった、カルト宗教や不審な団体から勧誘を受けているようだ、悪徳商法の被害にあっているようだ、無理に酒を飲まされて困っているようだ、本人と連絡が取れない、等の場合はご相談下さい。

学生支援グループ(電話024-548-8054または8061)
受付時間:月~金 9:00~16:30(時間外でも可能な限り対応します)

学生総合相談室(電話024-548-5156または8058、電子メール g039@ipc.fukushima-u.ac.jp)開設日等:
月・水・金に開設しますが週によって異なります。詳細は学生支援グループまでお問い合わせ下さい。